

科目名	文章構成法Ⅱ		
担当教員	北村 勝		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要			
学生生活および卒後の医療・福祉業務の遂行にあたり文章理解力・作成力は必須の能力である。本講義の目的は学校生活のみならず、社会生活においても必要となる日本語運用能力を身につけることにある。講義では必要な知識・技術習得のために適宜演習を行う。			
到達目標			
1.得られた情報を論理的に解釈し、自分の考えを交えてわかりやすく表現することができる。2.目的に応じて適切な文書を作成することができる。3.各種文書を作成するさいの基本的なルール、技法を説明することができる。4.医療人として、社会人として適切な言葉づかいをすることができる。			
授業の形式・方法			
プリントを使用し、講義形式・グループワーク形式で行う。			
成績評価の方法・基準			
提出物、参加態度で評価する（9：1）。			
学生へのメッセージ			
リハビリテーションのみならず、日常のいたる場面で書き手・話し手の伝えたいことを理解し、自分の考えを適切な日本語で表現することが重要である。このことを常に意識してほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
大学生のための日本語表現実践ノート	米田明美, 他	風間書房	1,100

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション：講義の概要を理解する	北村
2	要約①：要約力を身につける	北村
3	要約②：要約力を身につける	北村
4	要約③：要約力を身につける	北村
5	文章表現のしかた①：接続表現を理解する	北村
6	文章表現のしかた②：アカデミックワードと日常語の違いについて学ぶ	北村
7	文章表現のしかた③：論理的思考力を養う	北村
8	文章表現のしかた④：論理的な文章表現を身につける	北村
9	レポートの書き方①：レポートの書き方の基本を身につける	北村
10	レポートの書き方②：レポートの書き方の基本を身につける	北村
11	レポートの書き方③：レポートの書き方の基本を身につける	北村
12	レポートの書き方④：レポートの書き方の基本を身につける	北村
13	語彙：学術的な文章に必要な語彙について学ぶ	北村
14	手紙の書き方：礼状の書き方について学ぶ	北村
15	添え状の書き方：添え状の書き方について学ぶ	北村

科目名	体育実習 II		
担当教員	北村 勝		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	15
履修目的・授業概要			
・スポーツ，レクリエーションを通して対人との関係作りを学ぶ。 ・宿泊研修を通して自己の役割や他人を思いやる気持ちを育てる（社会状況に応じて変更もありうる）。			
到達目標			
・友好的人間関係を築く ・自ら自身の役割に気づき，適切な行動をふるまう			
授業の形式・方法			
実習			
成績評価の方法・基準			
出席率，参加態度を9：1として評価する			
学生へのメッセージ			
積極的に対人関係を築き，ルールに基づいた行動をとるようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	北村
2	校内・校外スポーツ	北村
3	校内・校外スポーツ	北村
4	校内・校外スポーツ	北村
5	校内・校外スポーツ	北村
6	校内・校外スポーツ	北村
7	校内・校外スポーツ	北村
8	校内・校外スポーツ	北村
9	校内・校外スポーツ	北村
10	校内・校外スポーツ	北村
11	校内・校外スポーツ	北村
12	校内・校外スポーツ	北村
13	校内・校外スポーツ	北村
14	校内・校外スポーツ	北村
15	校内・校外スポーツ	北村

科目名	運動学Ⅱ		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要			
運動学Ⅰの理解をふまえ、人体の動きを考える。 また運動を理解するためには循環器や呼吸器の機能を知り、恒常性がどのようになされているか理解する。			
到達目標			
人体の運動を科学的に説明できる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
試験（100％）			
学生へのメッセージ			
人の動きに注目して、個別性があることや共通性がある事を知って下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
運動学テキスト 改訂第2版	細田多穂	南江堂	5280

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション、肩関節	吉田
2	肩関節	吉田
3	肘関節	吉田
4	手関節、手指	吉田
5	股関節	吉田
6	膝関節	吉田
7	足関節	吉田
8	脊柱、頭頸部	吉田
9	筋収縮	吉田
10	末梢神経	吉田
11	中枢神経	吉田
12	循環器	吉田
13	呼吸器	吉田
14	腎機能、恒常性	吉田
15	試験	吉田

科目名	運動学実習		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 菊川 拓郎 小橋 泰文 手代木みなみ		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	1	15
履修目的・授業概要 実習を通して運動学的知識・観点を養う			
到達目標 ・運動を分析する手法，メカニズムを理解する ・得られたデータを考察し文章化する			
授業の形式・方法 実習			
成績評価の方法・基準 各課題レポート（100％）			
学生へのメッセージ 1学年時に習得した運動学の基礎を応用します。1年次の復習を事前に行ってください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	担当
2	これからの解析に必要な、基礎的な力学・幾何学を復習する	担当
3	筋力測定 1 (BIODEX)	担当
4	筋力測定2 (HHD)	担当
5	筋力測定3 (筋電図)	担当
6	体力測定1（エルゴメーター，トレッドミル，呼吸代謝測定）	担当
7	体力測定2（エルゴメーター，トレッドミル，呼吸代謝測定）	担当
8	体力測定3（エルゴメーター，トレッドミル，呼吸代謝測定）	担当
9	歩行分析1（マイオモーション）	担当
10	歩行分析2（マイオモーション）	担当
11	歩行分析3（マイオモーション）	担当
12	姿勢・動作分析1	担当
13	姿勢・動作分析2	担当
14	姿勢・動作分析3	担当
15	まとめのレポート提出	担当

科目名	生化学		
担当教員	矢澤 隆志		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	8
履修目的・授業概要			
生体と生命活動について学習する。病態の発症や治療、予防について必要な基礎知識と基本的な考え方を学ぶ。			
到達目標			
・ 生体構成物質の分子レベルから理解できる。 ・ 代謝について、その機能について理解できる。 ・ 糖質、脂質、タンパク質、核酸等の構造と機能について理解できる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
出席、取り組み態度、試験成績を総合して判定する。			
学生へのメッセージ			
授業は教科書中心に進め、適宜、スライドや動画などを用いて理解と興味を高めます。教科書は、きわめて分かりやすく書かれていますので、しっかり勉強してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
よくわかる専門基礎講座 生化学 第2版	津田 道雄	金原出版	2310

コマ	履修内容	教員
1	生命の保持と生化学の基本：細胞の構造、および細胞内小器官の機能と役割を学ぶ。	矢澤
2	酵素：酵素とは何か、その役割や性質について、基本を学ぶ。	矢澤
3	糖質代謝：生きるためのエネルギーを糖質からどのように得るか、糖質の消化・吸収・代謝について学ぶ。	矢澤
4	脂質代謝：脂質の構造、消化、吸収、体内輸送、役割、代謝について学ぶ。	矢澤
5	アミノ酸・タンパク質代謝：アミノ酸・タンパク質の構造、性質、役割、代謝について学ぶ。	矢澤
6	核酸の代謝：核酸の構造、性質、役割、代謝、病態の発症について学ぶ。	矢澤
7	ホルモン：ホルモンとは何か、その種類、分泌、フィードバック制御について学ぶ。	矢澤
8	筆記試験	矢澤
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	病理学		
担当教員	後藤 正憲 上小倉 昌代		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	8
履修目的・授業概要 病理学的思考を学び、病気の成り立ちを理解する			
到達目標 ・身体を構成している各器官・臓器・組織が、病的状態において、その形態、昨日などがどのように変化していくかを理解する。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 解剖学・生理学の基礎知識を十分に理解した上で臨んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準理学・作業療法学 病理学第5版	梶原博毅	医学書院	5060

コマ	履修内容	教員
1	序論・細胞傷害	後藤
2	組織修復・再生	後藤
3	免疫とその異常	後藤
4	循環障害	後藤
5	腫瘍	上小倉
6	感染症	上小倉
7	遺伝性疾患、先天性疾患	上小倉
8	筆記試験	後藤 上小倉
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	内科学Ⅰ		
担当教員	岡本健作 他（代謝疾患） 青沼達也（循環器疾患） 佐々木高明 他（呼吸器疾患）		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	2	21
履修目的・授業概要			
内科系疾患（呼吸器疾患・循環器疾患・代謝疾患）の概要とその診断・治療上の要点を学習する			
到達目標			
リハビリテーション現場に頻回に遭遇する疾患について理解できる。また、医療従事者として必要とされる一般的な医学的知識の習得する。			
授業の形式・方法			
オムニバス形式の講義で行う。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
これまでに履修した解剖学，生理学，病理学の知識をもとに様々な疾患について病態，治療法，予後などを学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
成人看護学3 循環器 第15版	吉田 俊子	医学書院	2640

コマ	履修内容	教員
1	代謝・栄養学	宿田
2	糖尿病総論	滝山
3	糖尿病各論	滝山
4	内分泌疾患総論	滝山
5	内分泌疾患各論	滝山
6	リウマチ	岡本
7	リウマチ様疾患	岡本
8	リウマチ以外の膠原病	田中
9	アレルギー性疾患	池知
10	循環器の構造と機能	青沼
11	循環器の症状と病態生理	青沼
12	疾患の理解	青沼
13	各種疾患 1（虚血性心疾患、心筋疾患、心不全、血圧異常）	青沼
14	各種疾患 2（弁膜症、心膜炎、先天性心疾患、動静脈系疾患）	青沼
15	呼吸器系の構造と機能	佐々木

科目名	内科学Ⅱ		
担当教員	坂谷 慧，小林 裕 岡田 哲弘，林 秀美 沖 潤一		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	2	16
履修目的・授業概要			
消化器・代謝疾患を学習する。 小児疾患に関して、知識を深める。			
到達目標			
・小児疾患について理解し，病態，症状，予後，一般的治療について説明できる。 ・内科系疾患について理解し，病態，症状，予後，一般的治療について説明できる。			
授業の形式・方法			
オムニバス形式の講義で行う。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
臨床現場で働いている医師の先生方の話を聞くことができる貴重な機会です。医師の先生方の疾患に対するとらえ方や考え方を学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	小児科総論 1	沖
2	小児科総論 2	沖
3	各論・神経筋疾患	沖
4	各論・脳の器質的疾患	沖
5	各論・てんかん	沖
6	各論・発達障害	沖
7	各論・重症心身障害児	沖
8	胆嚢・膵臓疾患	岡田
9	肝臓疾患1	林
10	肝臓疾患2	林
11	上部消化管疾患1	小林
12	上部消化管疾患2	小林
13	下部消化管疾患1	坂谷
14	下部消化管疾患2	坂谷
15	筆記試験(内科系疾患)	各担当

科目名	整形外科学		
担当教員	松野 丈夫		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	2	15
履修目的・授業概要			
骨、関節、筋、靱帯、脊椎・脊髄、末梢神経系などの整形外科各疾患について学習する。			
到達目標			
・ 整形外科に特有の検査法、診断法、治療法やリハビリテーションに関する知識を身につける。			
・ 外傷学（創傷、打撲、脱臼、骨折、捻挫等の分類、症状、合併症、治癒機転等）の基礎知識を身につける			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
予習復習に心がけること			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
病気がみえるVol.11 運動器・整形外科学		MEDIC MEDIA	3,800

コマ	履修内容	教員
1	整形外科総論（定義・歴史・診察・検査法）	松野
2	小児整形外科疾患	松野
3	骨折・脱臼（１）	松野
4	骨折・脱臼（２）	松野
5	関節損傷	松野
6	脊髄損傷	松野
7	末梢神経損傷	松野
8	関節リウマチと近縁疾患（含：骨・軟部腫瘍）	松野
9	骨・関節の炎症疾患，代謝性疾患	松野
10	脊椎疾患	松野
11	上肢の疾患	松野
12	下肢の疾患	松野
13	スポーツ障害・損傷，障がい者スポーツ	松野
14	整形外科とリハビリテーション	松野
15	試験	松野

科目名	中枢神経疾患		
担当教員	菊地 史織 福山 秀青 村上 皓紀 上森 元気 齊藤仁十 広島 寛 藤川 征也 三井 宣幸		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	2	23
履修目的・授業概要 神経変性疾患についての診断・治療上の注意を学ぶ。 脳神経外科領域の代表的疾患について病態生理と症状、疾患の特徴、画像診断や治療について学ぶ。			
到達目標 ・中枢性神経損傷によって生じる症状を説明できる。 ・各神経疾患の病態を理解する。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 神経の構造，神経の特性に基づいて理解することを意識して学ぶようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
病気がみえる vol.7 脳・神経		医療情報科学研究所	4290

コマ	履修内容	教員
1	病歴の取り方，診察の順序・記録の仕方	菊地
2	運動機能の診かた，反射の診かた，運動麻痺の診かた	菊地
3	感覚の診かた，感覚障害の診かた	菊地
4	脳神経の診かた，脳神経障害の診かた	菊地
5	小脳機能の診かた，小脳障害の診かた	菊地
6	精神症状、意識障害の診かた	菊地
7	高次脳機能，失語・失行・失認の診かた	菊地
8	脳血管障害 1	菊地
9	脳血管障害 2	菊地
10	錐体外路疾患	菊地
11	小脳疾患、運動ニューロン病	菊地
12	脱髄疾患、炎症疾患	菊地
13	末梢神経疾患、筋疾患	菊地
14	頭痛，てんかん，内科疾患	菊地
15	脳神経・脳機能について	広島

コマ	履修内容	教員
16	脊髄について	上森
17	高次機能・症候群について	福山
18	脳構造・画像について	村上
19	脳血管障害について	三井
20	脳腫瘍について	齊藤
21	頭部・脊髄外傷について	藤川
22	筆記試験 1	菊地
23	筆記試験 2	担当
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	精神医学		
担当教員	稲葉 央子 三浦 太一 西館 潤		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	2	15
履修目的・授業概要 精神疾患の症状・治療についての概要を学ぶ。			
到達目標 代表的な精神障害に関する専門的知識を取得する。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 分からないことは、遠慮なく、何でも質問をするようにして下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準精神医学 第4版	上野武治	医学書院	4,400

コマ	履修内容	教員
1	精神医学とは	稲葉
2	精神障害の成因と分類	稲葉
3	精神機能の障害と精神症状	稲葉
4	精神障害の診断と評価	稲葉
5	脳器質性精神障害・症状性精神障害	稲葉
6	精神作用物質による精神および行動の障害	稲葉
7	てんかん	稲葉
8	統合性失調症	稲葉
9	感情障害	稲葉
10	神経症性障害	稲葉
11	生理的障害・人格障害	稲葉
12	知的障害・発達障害	稲葉
13	認知症”ボケますので宜しくお願いします”視聴	三浦
14	リハビリテーション	西館
15	試験	稲葉

科目名	一般臨床医学		
担当教員	井上真澄，上坂司，庄中達也， 大谷将秀，榎本克朗，渡部大成， 水上奨一朗，館宏，井上貴博， 中川智絵，恒川良兼		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	2	16
履修目的・授業概要 医学的知識を高め、これからの専門領域に役立てる			
到達目標 ・この講義で扱う疾患の主な病態や治療について説明することができる。			
授業の形式・方法 オムニバス形式の講義で行う。			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 配付資料の復習を怠らないようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	全身麻酔とその影響	井上
2	局所麻酔とその影響	佐古
3	摂食嚥下のメカニズムとその障害	館
4	摂食嚥下障害に対するリハビリテーション	館
5	代表的な皮膚疾患	中川
6	熱傷リハビリテーション	中川
7	疾患分類の原則と代表的な疾患の例示	脇坂
8	代表的な疾患の例示と特徴の説明	脇坂
9	上部消化管疾患の手術療法、低侵襲治療	大谷
10	下部消化管疾患の手術療法、創傷管理	庄中
11	肝胆膵疾患の手術療法、臓器移植	水上
12	手術侵襲と生体反応、体液・栄養管理	榎本
13	滅菌と感染	渡部
14	泌尿器の構造と生理	恒川
15	泌尿器疾患と治療	恒川

科目名	病態運動学		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要			
ヒトは常に重力の中で運動している。運動に限らず姿勢も重力の中で制御されていることを学ぶ。			
到達目標			
・姿勢，基本動作を観察し，専門用語を用いてそれを表現できる。			
・正常・異常な姿勢・動作を運動学的・運動力学的解釈を加え説明できる。			
授業の形式・方法			
講義（一部実習）			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
運動機能障害を捉える能力を身につける授業の一つである。実技場面においては自ら積極的に動き体感してこそ早い理解につながる。常に“重力”というものを意識して授業に臨んでほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
実践 動作分析	西守 隆	医歯薬	4950
観察による歩行分析	月城慶一	医学書院	5500

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	富永
2	障害モデルに基づくアプローチ	富永
3	姿勢分析・動作分析について	富永
4	姿勢観察・分析①	富永
5	姿勢観察・分析②	富永
6	歩行の理解①	富永
7	歩行の理解②	富永
8	歩行の理解③	富永
9	異常歩行①	富永
10	異常歩行②	富永
11	異常歩行③	富永
12	異常歩行④	富永
13	歩行とエネルギー代謝	富永
14	演習	富永
15	筆記試験	富永

科目名	病態運動学実習		
担当教員	吉田 幸史 齊藤 浩平		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	1	23
履修目的・授業概要			
動作分析を通して、人体の動きを学ぶ。また、正常動作と異常動作の違いを実際の患者の動画を見て思考を深める。			
到達目標			
・動作分析の必要性を理解できる。 ・正常動作を理解し、異常動作が起こる原因を理解できる。 ・動作観察、分析内容を記述できる。			
授業の形式・方法			
実習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
動作分析は理学療法評価の中でも最も重要となるものです。正常動作をしっかりと理解し、異常動作の原因を追究できるようになってください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
実践！動作分析	上杉雅之 監修	医歯薬出版株式会社	4620
動作分析	石井慎一郎	メジカルビュー社	6160

コマ	履修内容	教員
1	姿勢・動作分析とは	吉田
2	姿勢分析	吉田
3	背臥位姿勢分析	吉田
4	座位姿勢分析	吉田
5	立位姿勢分析	吉田
6	立ち上がり動作観察・分析 1	吉田
7	立ち上がり動作観察・分析 2	吉田
8	寝返り動作観察・分析 1	吉田
9	寝返り動作観察・分析 2	吉田
10	起き上がり動作観察・分析 1	吉田
11	起き上がり動作観察・分析 2	吉田
12	歩行観察・分析 1	吉田
13	歩行観察・分析 2	吉田
14	座位・立位バランス 1	吉田
15	座位・立位バランス 2	吉田

科目名	理学療法演習Ⅱ		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 菊川 拓郎 小 橋 泰文 手代木 みなみ		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	15
履修目的・授業概要			
理学療法の土台となる運動生理学を中心テーマに置き、担当教員毎の少人数ゼミ形式を執る。			
到達目標			
・“教えられる”、から“自ら学ぶ”姿勢を身につける。 ・調査したことについて、学生同士でミニレクチャーができる。			
授業の形式・方法			
講義・実習			
成績評価の方法・基準			
課題レポート（100％）			
学生へのメッセージ			
指定の教科書はありませんので、様々な書籍、文献を読んでみて、文献を利用する力も身につけてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	担当
2	運動学復習①	担当
3	運動学復習②	担当
4	運動学復習③	担当
5	演習	担当
6	運動生理学復習①	担当
7	運動生理学復習②	担当
8	運動生理学復習③	担当
9	演習	担当
10	ゼミ毎自由テーマによる学習①	担当
11	ゼミ毎自由テーマによる学習②	担当
12	ゼミ毎自由テーマによる学習③	担当
13	ゼミ毎自由テーマによる学習④	担当
14	ゼミ毎自由テーマによる学習⑤	担当
15	レポート提出	担当

科目名	評価法実習Ⅰ		
担当教員	手代木 みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	23
履修目的・授業概要			
理学療法評価に必要な形態測定と関節可動域測定を学ぶ			
到達目標			
①健常者の四肢長・周径を計測することができる			
②健常者の関節可動域を測定することができる			
③検査結果の解釈ができるようになる			
授業の形式・方法			
教科書を用いながら、基本的には二人一組の実技を中心に授業を行う。適宜、講義形式の授業も実施する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験と実技試験で成績を判定する。その比率は5：5とする。			
学生へのメッセージ			
形態測定や関節可動域測定は理学療法評価において必ず実施する評価項目である。また、理学療法評価の根幹をなす部分でもある。実技形式の授業がメインとなるため、主体的に学ぶことを期待する。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
第2版臨床ROM 測定からエクササイズまで	隈元庸夫	ヒューマン・プレス	4,620

コマ	履修内容	教員
1	形態測定の目的や方法の理解	手代木
2	形態計測に必要なランドマークの復習	手代木
3	上肢長の計測の実際を学ぶ	手代木
4	下肢長の計測の実際を学ぶ	手代木
5	上肢周径の計測の実際を学ぶ	手代木
6	下肢周径の計測の実際を学ぶ	手代木
7	形態測定で得られた結果の解釈を学ぶ	手代木
8	関節可動域測定の目的や方法の理解	手代木
9	股関節の関節可動域測定を学ぶ①	手代木
10	股関節の関節可動域測定を学ぶ②	手代木
11	膝関節の関節可動域測定を学ぶ	手代木
12	足関節の関節可動域測定を学ぶ	手代木
13	肩関節の関節可動域測定を学ぶ①	手代木
14	肩関節の関節可動域測定を学ぶ②	手代木
15	肩甲帯の関節可動域測定を学ぶ	手代木

科目名	評価法実習Ⅱ		
担当教員	小橋 泰文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	23
履修目的・授業概要 新・徒手検査法の理解と技術の修得			
到達目標 ・筋力評価の意義，目的，測定方法を説明できる。 ・徒手筋力検査法を正確に実施できる。			
授業の形式・方法 実習			
成績評価の方法・基準 筆記試験，実技試験を5：5として評価する。			
学生へのメッセージ 教科書の記載事項を1つ1つ確認し、実技を進める。 実習時間に余裕がないため，必ず予習を行うこと。事前に筋の起始停止と作用の確認，教科書の各論で不明な点を明らかにしておくこと。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一	協同医書出版	8580

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション 総論・デモンストレーション	小橋
2	股屈曲 股屈曲，外転，膝屈曲位での外旋	小橋
3	股伸展・股伸展（分離） 股伸展（立位）・股伸展（背臥位）	小橋
4	股外転 股屈曲位での股関節外転	小橋
5	股内転 股外旋・股内旋	小橋
6	膝屈曲 膝伸展	小橋
7	足底屈 足背屈を伴う内返し・足内返し	小橋
8	足底屈を伴う外返し 下肢の復習	小橋
9	頭部伸展・頸部伸展・頭部屈曲・頸部屈曲 体幹伸展・体幹屈曲	小橋
10	体幹回旋・骨盤挙上 肩甲骨外転と上方回旋	小橋
11	肩甲骨挙上・内転 肩甲骨下制と内転	小橋
12	肩甲骨内転と下方回旋 広背筋のテスト	小橋
13	肩屈曲・伸展 肩外転	小橋
14	肩水平外転・水平内転 肩外旋・肩内旋	小橋
15	肩外旋・肩内旋（別法） 肘屈曲・伸展	小橋

コマ	履修内容	教員
16	前腕回外・前腕回内 手屈曲・手伸展	小橋
17	手指MP, PIP, DIP屈曲, 手指伸展, 手指 外転・内転	小橋
18	母指MP, IP屈曲・伸展, 母指外転・内転	小橋
19	グループワーク①	小橋
20	グループワーク②	小橋
21	疾患に対する実施①	小橋
22	疾患に対する実施②	小橋
23	筆記試験, 実技試験	小橋
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	評価法実習Ⅲ		
担当教員	菊川 拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	23
履修目的・授業概要 各種疾患の診断と評価，神経学的検査法の理解をする			
到達目標 ①神経学的検査を健常者に対して正確に実施できるようになる。 ②検査結果の解釈ができるようになる			
授業の形式・方法 教科書を用いながら、2～3人1組の実技を中心に授業を進めていく。適宜、解剖学・生理学等の講義も実施する。			
成績評価の方法・基準 筆記試験と実技試験で成績を判定する(5:5)			
学生へのメッセージ 感覚検査や運動麻痺の評価は、理学療法士にとって重要な評価項目です。実技メインの授業内容ですので、積極的に学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
神経診察クローズアップ	鈴木則宏	メジカルビュー	7000

コマ	履修内容	教員
1	反射の種類と腱反射のメカニズム・病的反射について	菊川
2	腱反射：実技（上肢）	菊川
3	腱反射：実技（下肢）	菊川
4	病的反射：実技	菊川
5	感覚経路・皮膚分布・感覚障害像について	菊川
6	感覚検査：実技（表在感覚）	菊川
7	感覚検査：実技（表在感覚）	菊川
8	感覚検査：実技（深部感覚）	菊川
9	感覚検査：実技（複合感覚）	菊川
10	小脳機能の診かた～病巣部位と障害像・診察のすすめかたについて	菊川
11	実技（運動失調検査）	菊川
12	実技（運動失調検査）	菊川
13	運動麻痺の診かた～Brunnstrom testによる運動麻痺の評価方法（上肢・手指）	菊川
14	運動麻痺の診かた～Brunnstrom testによる運動麻痺の評価方法（下肢）	菊川
15	運動麻痺の診かた～12段階片麻痺機能検査による運動麻痺の評価方法（上肢）	菊川

[illegible][illegible]

科目名	評価学総論		
担当教員	北村 勝		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要 評価についての理解を深め、その実践方法を学ぶ。			
到達目標 1.評価とは何かということを理解する。 2.評価の重要性を理解する。 3.理学療法の一連の流れを理解する。			
授業の形式・方法 教科書、プリントを活用しながら講義形式で行う。グループワークも多く取り入れる予定である。			
成績評価の方法・基準 筆記試験により評価する（100％）。			
学生へのメッセージ 理学療法は”評価に始まり評価に終わる”といっても過言ではない。しっかりとその流れ、内容について理解してほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
(参) 理学療法評価学 第3版	奈良 勲	医学書院	6380

コマ	履修内容	教員
1	検査・測定・評価について理解する	北村
2	検査の信頼性・妥当性・感受性・特異性について理解する	〃
3	ICIDH、ICFについて理解を深める	〃
4	〃	〃
5	処方箋を読み取る手順、ポイントを理解する	〃
6	理学療法評価の一連の流れを理解する	〃
7	情報収集の種類、内容を理解する	〃
8	統合と解釈の手順・内容を理解する	〃
9	〃	〃
10	問題点抽出過程を理解する	〃
11	ゴール設定方法を理解する	〃
12	診療記録の内容・記載の仕方を理解する	〃
13	医療面接のポイントを理解する	〃
14	サマリーを使用し、一連の理学療法プロセスを体験する	〃
15	試験	〃

科目名	臨床評価学		
担当教員	菊川 拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	1	15
履修目的・授業概要			
評価の目的を正しく理解できる 評価の流れを理解したうえで、様々な疾患に対して治療指向的な評価を考えることができる			
到達目標			
・理学療法における評価の位置づけを理解する ・評価の流れ・目的の理解 ・評価対象となる疾患の病態について理解する ・それぞれの疾患に対して異常による主な障害とそれらの評価の要点をまとめ、具体的な評価方法を理解する			
授業の形式・方法			
講義14コマ・試験1コマ。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験80点＋グループ課題20点＝100点とし、60点以上を合格とする			
学生へのメッセージ			
各疾患の基本事項は講義前に復習しておく事。 グループワークにおいては、考えること、発言することが参加すること（＝行動）として理解すべきである。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
理学療法評価学	内山靖	医学書院	5800

コマ	履修内容	教員
1	理学療法評価とは～評価の基本的概念（評価目的・評価の視点・評価の構成要素）	菊川
2	理学療法評価とは～評価の流れと評価時期	菊川
3	情報収集について～必要な情報を得るためのポイント	菊川
4	情報の整理～医学情報・他部門情報などの取り方について	菊川
5	疾患の整理（グループワーク） 臨床場面で評価対象である疾患の病態理解し、具体的な評価項目をまとめる	菊川
6	疾患の整理（グループワーク） 臨床場面で評価対象である疾患の病態理解し、具体的な評価項目をまとめる	菊川
7	疾患の整理（グループワーク） 臨床場面で評価対象である疾患の病態理解し、具体的な評価項目をまとめる	菊川
8	疾患のまとめ（グループ発表）	菊川
9	疾患のまとめ（グループ発表）	菊川
10	動作観察と仮説～動作と評価項目の結びつけ	菊川
11	動作観察と仮説～動作と評価項目の結びつけ	菊川
12	仮説検証～臨床場面での仮説検証方法を理解し、評価優先順位の重要性を学ぶ	菊川
13	仮説検証と問題点抽出～検証した仮説に基づいて、問題点を探る	菊川
14	仮説検証と問題点抽出～検証した仮説に基づいて、問題点を探る	菊川
15	1～14コマの範囲について筆記試験を実施	菊川

科目名	日常生活活動		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーション医療における日常生活動作活動の意義について理解するとともに、障害のとりえ方や評価方法、疾患別ADLの基礎知識や指導方法等について各論・総論に分けて学ぶ			
到達目標			
1.日常生活活動の種類や範囲が理解できる。 2.代表的な評価の特徴を理解できる。 3.各基本動作やADLの特徴を理解する。 4.代表的な疾患におけるADLの特徴を理解できる。 5.基本動作の介助方法について理解する。			
授業の形式・方法			
講義・グループワーク			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
理学療法において、日常生活活動は運動療法とともに大きな領域を占めます。患者さんやその家族、一人一人の生活スタイルに合ったADL指導の実施とQOLを高めるための視点を持つための基盤を作る。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
日常生活活動学	臼田 滋	メジカルビュー社	5280

コマ	履修内容	教員
1	ADLの基本的概念	富永
2	基本的日常生活活動	富永
3	ADLと障害のとりえかた（WHO国際分類・障害分類）	富永
4	QOLの概念・構造、QOL	富永
5	ADLを支援する機器（自助具・補装具・車椅子）	富永
6	基本動作とセルフケア	富永
7	ADL評価の目的と役割	富永
8	各種ADL評価方法の実際	富永
9	各種ADL評価の活用	富永
10	疾患別ADL（人工関節）	富永
11	疾患別ADL（脳性麻痺）	富永
12	疾患別ADL（下肢切断・脊髄損傷）	富永
13	疾患別ADL（神経筋疾患）	富永
14	疾患別ADL（片麻痺）	富永
15	試験	富永

科目名	運動療法		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要 運動療法に必要な基礎的な知識、技術について学習する。			
到達目標 運動療法に必要な基礎知識を身につける。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ 解剖学、生理学、運動学の復習も併せて行ってください。			
<参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準PT 運動療法 総論		医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	吉田
2	運動療法の歴史	吉田
3	筋トレ①	吉田
4	筋トレ②	吉田
5	ROM①	吉田
6	ROM②	吉田
7	ストレッチ①	吉田
8	ストレッチ②	吉田
9	持久力①	吉田
10	持久力②	吉田
11	協調性①	吉田
12	協調性②	吉田
13	運動制御と運動学習①	吉田
14	運動制御と運動学習②	吉田
15	試験	吉田

科目名	運動療法実習Ⅰ		
担当教員	小橋泰文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	1	23
履修目的・授業概要			
関節可動域運動、筋力強化、持久力強化法についてその理論と実際を学ぶ。			
到達目標			
①ROM制限の原因を理解し、ROM訓練のプログラムを立案することができる			
②筋力低下の原因を理解し、筋力強化のプログラムを立案することができる			
③持久力低下の原因を理解し、持久力強化のプログラムを立案することができる			
授業の形式・方法			
講義形式や実技形式で授業を行う。場合によってはグループワークを行うこともある。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験で成績を判定する。(100%)			
学生へのメッセージ			
運動療法は理学療法士の主たる治療手段である。3年次、4年次の実習に向けて積極的に学ぶことを期待する。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	関節可動域運動の概念	小橋
2	関節可動域に影響を与える因子	小橋
3	関節可動域運動の一般原則、運動の実際	小橋
4	上肢の関節可動域運動	小橋
5	下肢の関節可動域運動	小橋
6	脊柱の関節可動域運動	小橋
7	関節可動域のプログラムの立案	小橋
8	筋力・筋持久力の概念	小橋
9	筋力に影響を与える因子	小橋
10	筋力増強の一般原則、運動の実際	小橋
11	機器を用いた筋力評価	小橋
12	上肢・体幹の筋力強化の実際	小橋
13	下肢の筋力強化の実際	小橋
14	筋力強化のプログラム立案	小橋
15	持久力の概念	小橋

コマ	履修内容	教員
16	持久力増強運動の基礎的理論	小橋
17	持久力増強運動の効果	小橋
18	持久力の評価①	小橋
19	持久力の評価②	小橋
20	全身持久力強化の実際	小橋
21	持久力強化のプログラムの立案	小橋
22	まとめ	小橋
23	試験	小橋
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	検査臨床実習		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 菊川 拓郎 小橋 泰文 手代木 みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	
2	後	3	135
履修目的・授業概要			
実際の臨床場面において、検査過程のプロセスを経験する			
到達目標			
今後の総合臨床実習向けて、社会人・医療人としての言動と患者様に対しての正確な検査手技をめざす。			
授業の形式・方法			
臨床実習			
成績評価の方法・基準			
臨床実習地と学内評価 (5:5)			
学生へのメッセージ			
社会人として、医療人としての言動に気を付けてください。また、患者様には協力頂けることに感謝して実習を遂行してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

履修内容
令和8年1月19日～2月7日 （正味14日間×8時間＝112時間） ①学内においてpre－OSCEとpost－OSCE、CBTを実施 ②実習地において以下を実践する ROM MMT 形態計測 その他必要な検査 ③ 症例検討会において他の学生が経験した事を共有する